

東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会
第1回会合

中央防災会議専門調査会における 想定地震

1. 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の発生状況 (p1~2)
2. 中央防災会議専門調査会における想定地震 (p3~4)

日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の発生状況

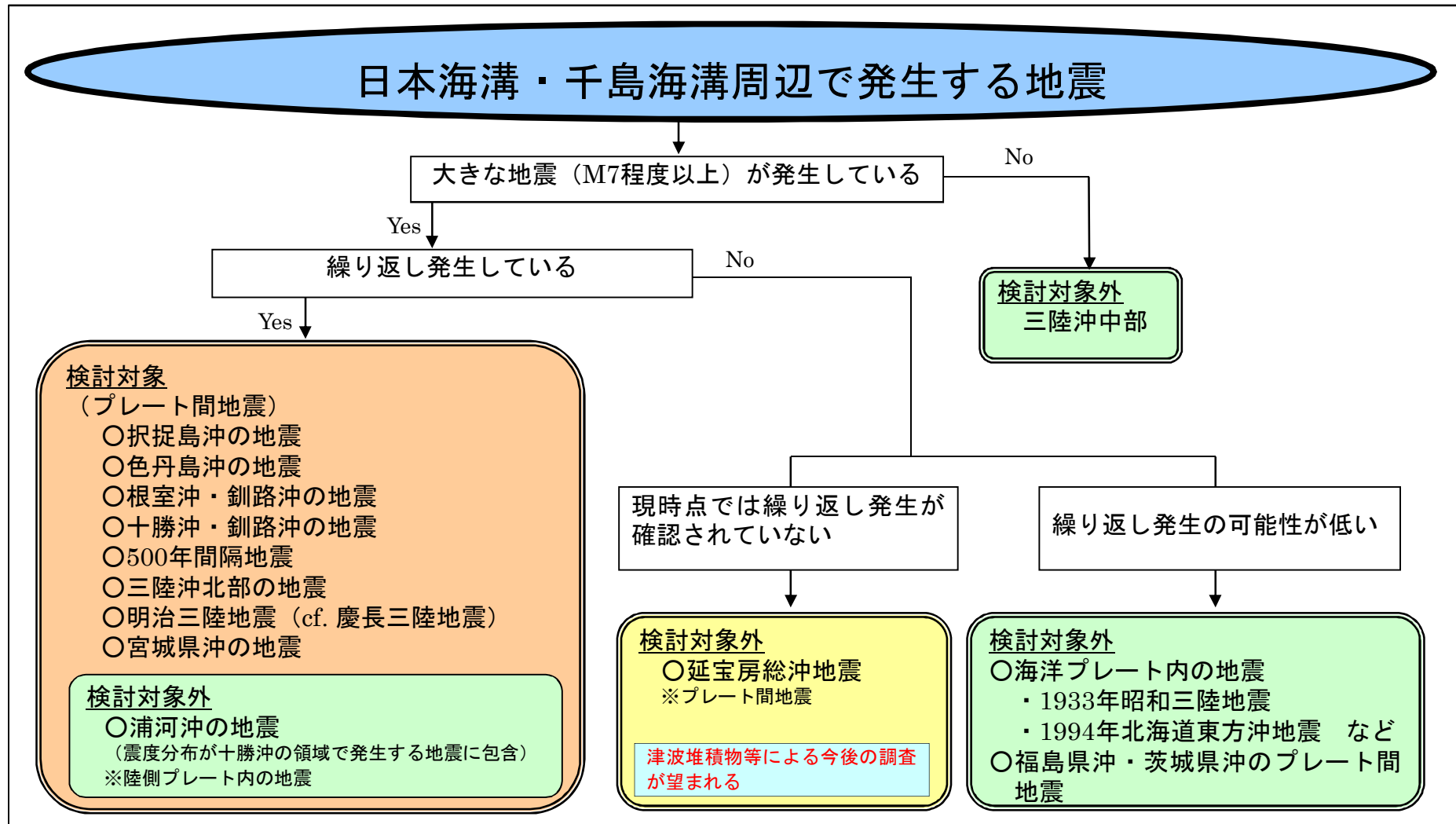
被害状況一覧(1800年以降に発生したマグニチュード7以上の主な地震)

発生年月日	地震	マグニチュード	人的被害	建物被害
1843年4月25日	釧路・根室地震	7.5	死者46	家屋破壊76
1894年3月22日	根室沖地震	7.9	死者1	家屋潰12
1896年6月15日	明治三陸地震	8.1/4	死者・行方不明者21,920	家屋被害数7,957(戸)
1897年2月20日	宮城県沖地震	7.4	—	家屋大破等61
1897年8月5日	宮城県沖地震	7.7	—	—
1933年3月3日	昭和三陸地震	8.1	死者1,522、行方不明者1,542	家屋被害数6,067(棟)
1936年11月3日	金華山沖地震	7.4	—	全潰3
1938年11月5日	福島県東方沖地震	7.5	死者1	全潰20
1952年3月4日	十勝沖地震	8.2	死者28、行方不明者5	全壊815、半壊1324、流失91
1958年11月7日	択捉島沖地震	8.1	—	—
1963年10月13日	択捉島沖地震	8.1	—	—
1968年5月16日	十勝沖地震	7.9	死者52	全壊673、半壊3,004
1969年8月12日	北海道東方沖地震	7.8	—	—
1973年6月17日	根室半島沖地震	7.4	—	全壊2
1978年6月12日	宮城県沖地震	7.4	死者28	全壊1,183、半壊5,574
1993年1月15日	釧路沖地震	7.5	死者2	—
1994年10月4日	北海道東方沖地震	8.2	死者・行方不明者10	全壊61、半壊348
1994年12月28日	三陸はるか沖地震	7.6	死者3	全壊72、半壊429
2003年9月26日	十勝沖地震	8.0	死者1、行方不明者1	全壊116、半壊368
2005年8月16日	宮城県沖地震	7.2	—	全壊1
2011年3月11日	東北地方太平洋沖地震	9.0	死者15,234名、 行方不明者8,616名 (5月26日時点)	全壊102,886戸、 半壊58,518戸 (5月26日時点)

(出典) マグニチュード: 理科年表(平成23年版)、「東北地方太平洋沖地震」(モーメントマグニチュード)は気象庁HP、
人的被害、建物被害: 理科年表(平成23年版)、明治三陸地震・昭和三陸地震は「日本被害地震総覧2003年初版」、東北地方太平洋沖地震は「警察庁広報資料(5月26日)」

中央防災会議専門調査会における想定地震

日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に関する専門調査会の想定地震の考え方



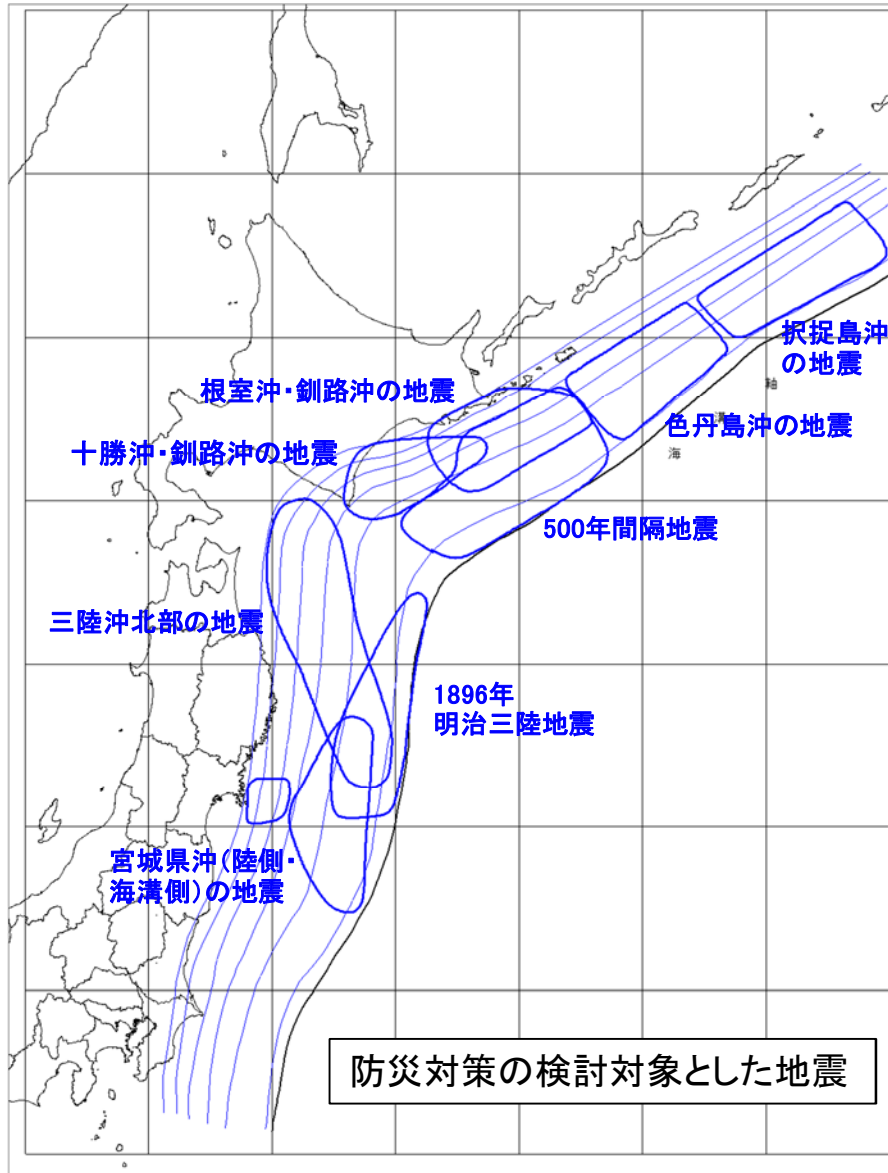
※869年貞観三陸沖地震 (出典) 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に関する専門調査会「第10回 北海道ワーキンググループ報告書より

「この地震については、地震や津波について具体的なことは殆ど解明されていないことから、断層モデルの検討を行っていない。

しかし、この地震により仙台平野で1000名が溺死したという記録があり、地域において防災対策の検討を行うにあたっては、このことに留意する必要がある。また、最近、仙台平野を中心としてこの津波堆積物に関する調査の事例(菅原ら,2001)もあり、今後更なる研究の発展を期待したい。」

中央防災会議専門調査会における想定地震

日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に関する専門調査会の想定地震



防災対策の検討対象とした地震

地震	マグニチュード
択捉島沖の地震	8.4
色丹島沖の地震	8.3
根室沖・釧路沖の地震	8.3
十勝沖・釧路沖の地震	8.2
500年間隔地震	8.6
三陸沖北部の地震	8.3(強振動) 8.4(津波)
宮城県沖の地震	7.6(陸側) 8.2(連動)
明治三陸地震	8.6

留意事項とした地震

- ・869年貞観三陸沖地震
- ・1611年慶長三陸沖地震
- ・1677年延宝房総沖地震
- ・1933年昭和三陸地震